環境経営レポート

2022年度

(実施期間:2022年5月1日～2023年4月30日)

2023年8月22日発行

2023年10月25日改定

PRODUCT INNOVATION

IIZUKA & CO., LTD.

株式会社飯塚鉄工所

®環境省
エコアクション21
認証番号 0001052

1. 環境経営方針

㈱飯塚鉄工所は以下の環境経営方針を定めています。

環　境　経　営　方　針

基本理念

株式会社飯塚鉄工所は、金属部品加工製造業として自然との調和を意識し、
環境問題を認識すると共に、環境経営システムを構築・運用し維持することにより
継続的な改善に取り組む。

活動方針

1．当社は環境関連法規、条例及びその他の規制を遵守し、可能な範囲で
環境保全に取り組む。
2．資源・エネルギーの消費の適正化（二酸化炭素排出量削減）に努める。
・電力消費量の削減
・化石燃料の削減
3．廃棄物の削減と、資源としての再利用を進める。
・一般及び産業廃棄物の分別の徹底
・リサイクル率の向上
4．水資源投入量の適正化に努める。
・水使用量の削減
5．環境活動に配慮した生産活動の推進
6．環境に優しい物品への取替えを進める。（グリーン調達の実施）
この環境方針達成のため、環境教育や必要な訓練により、全従業員に
周知徹底を図る。

制定日　　2014年5月1日
改訂日　　2020年5月1日
株式会社　飯塚鉄工所
代表取締役　　飯塚肇

2. 組織(事業所)の概要

① 事業者名及び代表者名

株式会社 飯 塚 鉄 工 所
代表取締役　　飯 塚　　肇

ホームページ　http://www.e-iizuka.co.jp

② 所在地

（本社工場）　〒945-0812
新潟県柏崎市半田３丁目１５番１６号

（安田工場）　〒945-1355
新潟県柏崎市安田３２２８番地１

（軽井川工場・軽井川第二工場・品質物流工場）
〒945-1356
新潟県柏崎市軽井川９３１番４２

（城塚倉庫）　〒945-1343
新潟県柏崎市城塚２丁目２番地

（愛知営業所）　〒450-0002
愛知県名古屋市中村区名駅3丁目17-34
ナカモビル3F

③ 認証・登録範囲

その他組織・全活動を対象とする
ただし、愛知営業所、品質物流工場は対象外とし、4年以内に拡大する

④ 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者　　飯塚　肇

ＥＡ２１事務局
連絡担当者　　総務部　髙橋　沙織
TEL　0257-41-5551　　FAX　0257-41-5501

⑤ 事業活動(対象範囲)及び活動の内容

流体機器、真空機器、医療機器の金属部品加工製造業

流 体 機 器
：コントロールバルブ組立・部品加工
：ポンプ組立・部品加工
：一般特殊機械の部品加工及び制作
真 空 機 器
：真空バルブ・部品加工
医 療 機 器

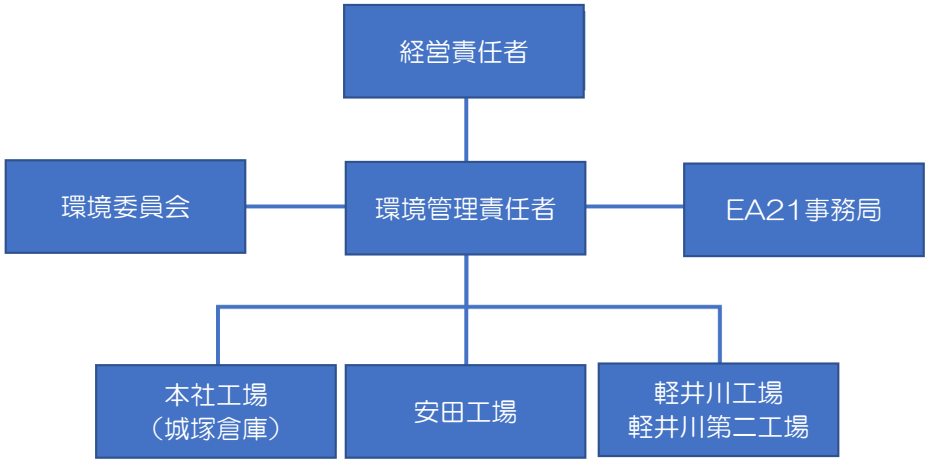
⑥ 事業の規模

従業員数　　134人　（2022年8月19日現在）
（本社　47人　安田　10人　軽井川　34人　軽井川第二　8人　品質物流　29人）
（愛知営業所　2人）

敷地面積

本　　社	(延べ	1714㎡)
安田工場	(延べ	1586㎡)
軽井川工場	(延べ	2303㎡)
城塚工場	(延べ	1153㎡)
合計	(延べ	6756㎡)

3. 環境組織図



※2020年8月19日に見直した現在の環境組織図です。
環境管理責任者を委員長とした「環境委員会」を設置し活動している。

環境経営における役割・責任・権限

役割	責任・権限
代表者 （経営責任者）	① 代表者は、代表取締役とする。 ② 代表者は、環境管理責任者を任命する。 ③ 経営における課題とチャンスを明確にする。 ④ 環境への取組を適切に実行する為の資源を用意する。 ⑤ 自ら「環境経営方針」を定める。 ⑥ 社全体の「環境経営目標」及び「環境経営マニュアル」「環境システム組織図」「環境経営レポート」を承認する。 ⑦ 代表者は毎年1回　エコアクション21に基づく環境経営方針、環境経営目標の効果を評価し、必要に応じて見直しを行う。
環境管理責任者	① 環境管理責任者は、代表者に代わり環境マネジメントシステム全体の構築・運用・維持に責任を持つと共に必要な権限を有する。 ② 代表者に代わって要求事項を満たす環境マネジメントシステムを構築・運用し、その状況を代表者に報告する。 ③ 社全体の「環境経営目標」を策定する。 ④ 「環境経営計画」「環境関連法規」「緊急事態対応マニュアル」「教育訓練年間計画」を承認する。 ⑤ 環境委員会の主催。
EA21事務局	環境管理責任者の指示により、下記業務を行う。 ◕ 「環境経営マニュアル」の作成及び改訂の作成 ◕ 社全体の「環境経営目標」及び「環境経営計画」の作成 ◕ 環境関連文書及び記録の作成・確認 ◕ 代表者による全体の取組状況評価及び見直し結果の記録作成 ◕ 環境経営レポートの作成・取りまとめ
環境委員	① 環境管理システムを運用・管理する ② 「環境経営方針」の周知徹底 ③ 「環境経営目標」の達成に向けての活動促進 ④ 実施体制の周知徹底 ⑤ 緊急事態の想定及び訓練実施
従業員	① 「環境経営方針」を理解し、「環境経営目標」達成の為、「環境経営計画」を確実に実施する。 ② 自己の業務が環境に及ぼす影響を十分に認識し、環境の維持・改善に努める。

4. 環境経営目標

		中期目標		
環境経営目標	目標基準値(2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度
対生産電気効率10%向上	79.0(point)(本社工場・安田工場) 242.4(point)(軽井川・第二工場)	対生産電機効率10%向上 86.9 266.6	対生産電機効率10%向上 95.6 293.3	対生産電機効率10%向上 105.1 322.6
CO_2排出量の削減	1,010,694(kg-CO2)	前年度比の+10%抑制 909,597.6	前年度比2%削減 1,030,773	前年度比2%削減 1,063,261
電気使用量の削減	1,620,503(kWh)	前年度比の+10%抑制 1,458,452.7	前年度比2%削減 1,678,652	前年度比2%削減 1,738,383
化石燃料使用量の削減(ガス)	527(㎥)	前年度の数値を目標 527(㎥)	前年度比2%削減 577	前年度比2%削減 521
化石燃料使用量の削減(燃料)	7,551(ℓ)	前年度の数値を目標 7,551(ℓ)	前年度の数値を目標 9,466	前年度の数値を目標 7,760
一般廃棄物の排出量の削減	10,527(kg)	前年度の数値を目標 10,527(kg)	前年度の数値を目標 11,199	前年度の数値を目標 11,413
梱包資材のリサイクル率向上	100%	前年度の数値を目標 100%	前年度の数値を目標 100%	前年度の数値を目標 100%
水使用量の削減	1,720(㎥)	前年度の数値を目標 1,720(㎥)	前年度比2%削減 1,626	前年度比2%削減 1,544
グリーン調達の実施	95.5%	前年度の数値を目標 95.5%	前年度の数値を目標 96.2%	前年度の数値を目標 96.5%
納期確保率の向上(本社工場・安田工場)	95.0%	95.0%	顧客指定納期遵守率 85.0%	顧客指定納期遵守率 88.0%
納期確保率の向上（軽井川工場）	主要医療顧客:100% 主要ポンプ顧客:100%	主要医療顧客:100% 主要ポンプ顧客:100%	顧客指定納期遵守率 85.0%	顧客指定納期遵守率 88.0%
生産性及び品質に関わる能力の向上（軽井川第二工場）	年/18件	年/18件	-	-

※2021年度の結果を踏まえて、2022年度の目標を見直した。

対生産電気効率(point) = (売上(千円)÷電気使用量(kwh))×売上個数(千個)

※2022年度より軽井川第二工場も「納期確保率の向上」を目標とする。

※化石燃料使用量について、「ガス」は都市ガスとLPG使用量の合計、「燃料」はガソリン、軽油、灯油の合計である。

5. 2022年度における環境経営目標とその実績（全社）

項　　目	2021年度	2022年度
CO_2総排出量(kg-CO_2)	1,052,014	1,085,008

項　　目	目標	実績	評価
①対生産電気効率10%向上(本社・城塚・安田)	95.6	104.1	○
(軽井川・軽井川第二	293.3	432.6	○
②CO2排出量の削減(kg-CO2)	1,030,773	1,085,008	×
③電気使用量の削減(kWh)	1,678,652	1,773,860	×
④化石燃料使用量の削減(ガス)(㎥)	577	531	○
⑤化石燃料使用量の削減(燃料)(ℓ)	9,466	7,760	○
⑥一般廃棄物の排出量の削減(kg)	11,199	11,413	×

項　　目	目標	実績	評価
⑦リサイクル率の向上(%)	100.0%	100.0%	○
⑧水使用量の削減(㎥)	1,626	1,575	○
⑨グリーン調達の実施	96.2%	96.5%	○
⑩納期確保率の向上(本社・安田)	85.0%	57.2%	×
⑩納期確保率の向上(軽井川・軽井川第二)	85.0%	89.8%	○

5－（1）目標設定値

2022年度は上記表の通り設定した。

5－（2） 各項目換算式。

①対生産電気効率目標値(point) = 2021年度基準数値

計算式：(売上(千円)÷電気使用量(kwh))×売上個数(千個)

②CO_2排出量の削減目標値（kg-CO_2) = 2021年度累計数値(排出係数　0.600kg-CO_2/kWh)×0.98

CO2排出量を把握する際に用いた購入電力の排出係数は平成24年度の東北電力株式会社の実排出係数0.600kg-CO2/kWhを使用した。

※2020年度実績排出量は三工場に城塚倉庫、軽井川第二工場を含む。

③電気量削減目標値（kWh) = 2021年度累計使用量×0.98

④化石燃料削減(ガス)目標値（㎥) = 2021年度累計使用量×0.98

⑤化石燃料削減(燃料)目標値(ℓ) = 2021年度累計使用量×0.98

⑥一般廃棄物の削減（分別率算出（%)) = 2021年度(産業廃棄物以外)廃棄物累計排出量

※本社工場に城塚倉庫の廃棄物を含む

⑦リサイクル率の向上（リサイクル率算出（%)) = A/（廃棄量+A）×100

※梱包資材のリサイクル率、廃棄量を言う　「A=ダンボールストック量＋パッキンストック量」

⑧水使用量の削減（㎥/h) = 2021年度累計使用量×0.98

⑨グリーン調達の実施　グリーン調達率（%) = エコマーク商品／全購入品×100

⑩納期確保率の向上 (%) = 2022年度納期確保率　希望納期85%

2022年度の結果

今年度は、弊社としても大きな目標である、「対生産電気効率10%向上」を本社、軽井川共に達成することができました。ですが、内製化が進んだため、CO2排出量削減、電気使用量削減は両方とも達成できませんでした。2023年度は達成に向けて、従業員一同で取り組めるような活動を、委員会内で協議し、環境活動を推進していきたいと思います。

6. 環境経営計画の内容

目標項目	内　　容	2022年度の取組結果	2023年度の取組内容
①対生産電気効率10%向上	◕ 生産に対して電気使用量を把握し、連絡会を通じて全体周知を行う。	全体周知が定着してきている。	継続して行う。
③電気使用量の削減	◕ 未使用時の積極的な電源ＯＦＦに努める。 昼休み時・終業時は必ず行い、機械未稼働時も必要なければ電源ＯＦＦ。 パソコン等ＯＡ機器も同様。	徹底している。	継続して行う。
	◕ 始業前点検・月一回メンテナンス日の設定・実施。	カレンダー掲示を行い実施した。	
④化石燃料使用量の削減 （ガス）	◕ 未使用時の消火の徹底。	徹底できた。	継続して行う。
	◕ 未使用時・終業時のガス栓閉の徹底。	徹底できた。	継続して行う。
	◕ 給湯器の無駄な使用を抑えるよう心がける。	周知徹底を心掛けた。	呼びかけを行い徹底を図る。
⑤化石燃料使用量の削減 （燃料）	◕ 社用車を使用する際には「社用車点検日報」記入し使用状況を確認する。	使用者は必ず記入し適切に管理した。	社用車追加により使用頻度が増加傾向になると思われるが、なるべく使用頻度を減らすよう努力する。
	◕ 工場間を行き来する用件をなるべくまとめて回数削減。	周知徹底を心掛けた。	
	◕ エコドライブ運転等の配慮	推進できている。	
	◕ 部門比較は灯油使用時【冬季のみ】とする。	冬季の灯油仕様も極力抑えた。	
⑥一般廃棄物の削減	◕ 種別ごとにBOXを設置する。	廃棄物の分別を徹底している。	継続して行う。
	◕ ペーパータオルの使用枚数制限の実施	定着してきている。	
	◕ 設置場所を確保する。	確保できている。	
	◕ 分別種別表の掲示及び環境管理責任者によるチェック・評価。	徹底できた。	
⑦リサイクル率の向上	◕ 種別ごとにBOXを設置する。	良い状態を保てている。	継続して行う。
	◕ 全社員該当のキリコ周り清掃当番の実施。	定着している。	
	◕ ダンボール・ﾊﾞｯﾄﾝ材は再利用不可と判断されたときに廃棄し、それ以外は出荷用としての再利用・製品の下敷など社内間での再利用に努める。	積極的に再利用に努めた。	
	◕ 両面使用済コピー用紙や油が染みて再利用不可の物以外の梱包使用済みの新聞紙・広告は、シュレッダーにかけ、梱包資材として再利用する。	積極的に再利用に努めた。	
⑧水使用量の削減	◕ 使用量を測定する。	検針票により確認できている。	継続して行う。
	◕ 節水管理の徹底をする。	徹底できた。	
⑨グリーン調達の実施	◕ エコマーク商品の購入時の選定	購入時、エコマーク商品を選ぶよう周知徹底を心掛けた。	カタログ等表記のあるものを参照に展開していく。
⑩納期確保率の向上 (本社・安田)	◕ 段取指示書の作成推進	推進できている。	継続して行う。
	◕ 新規工具の導入や切削条件の見直し検討会議	定着している。	
⑩納期確保率の向上 (軽井川・軽井川第二)	◕ 前年度の目標未達を受けて改善対策を実行	改善対策を実行できている。	重要部品について、計画を立て推進。 実績をもとに見直しと生産への反映。

柏崎市ECO₂プロジェクト

2022年度　参加状況

都合により参加できなかった為、2023年度は積極的に参加したいと思います。

7. 環境関連法規の取りまとめと遵守状況への違反・訴訟の有無

① 法規制遵守状況の適合性評価・遵守状況

⑴ 騒音規制法・・・指定地域外の為非該当。
⑵ 振動規制法・・・指定地域外の為非該当。
⑶ 新潟県生活環境保全条例・・・騒音、振動に関わる規制基準を遵守する。
⑷ 下水道法・・・特定施設対象外であるが、下水道受入基準を遵守する。
⑸ 水質汚濁防止法・・・特定施設非該当。
⑹ 浄化槽法・・・保守点検・清掃（業者委託）
⑺ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律・・ﾏﾆｭﾌｪｽﾄを活用。適正処理実施。
⑻ 容器リサイクル法・・・廃棄物の減量・適正処理及び有効活用。
⑼ 家電リサイクル法（廃棄時）・・・適正処理。
⑽ 自動車リサイクル法・・・引取業者への適正な引渡し。
⑾ グリーン購入法・・・環境への負荷の低減に資する製品購入割合促進。
⑿ 消防法・・・灯油について「柏崎市火災予防条例第46条」に基づき届出をした。
⒀ 高圧ガス保安法・・・指定数量以下なので届出不要。但し規制は遵守。
⒁ 環境条例・・・遵守している。
⒂ 労働安全衛生法・・・労働者の安全と健康の確保に努めている。
⒃ フロン排出抑制法・・・業務用冷凍空調機器の適正管理。

② 違反・訴訟等

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、
過去3年間ありません。

8. 2022年度の活動に対する代表者による評価・見直しの結果

エコアクション21の取り組みとして、トップダウンからボトムアップ、組織的な活動に切り替えるべく取り組みの再構築を行いました。

委員会を1回/月で開催し事務局と環境管理責任者の進行の元、“誰でもできる環境保全活動”の案を出すような定例会の定着を行い、出たアイディアでは手洗い後のペーパータオルの使用制限を2枚/人とし活動をした。
また、対電気生産効率においては大幅な目標達成となった。

来年の方針として、啓蒙活動や植樹等の外部PRをしっかり行う様に引き続きボトムアップを行っていく方針です。

品質物流工場の対象範囲の拡大に向けて、実施体制の見直しを図ることとする。

①環境経営方針	☑	変更なし	☐	変更あり
②環境経営目標・計画	☑	変更なし	☐	変更あり
③実施体制他	☐	変更なし	☑	変更あり